

改題

# 土楽たより

どうらく

Kogure 農場 11月号 (NO67)

2015年11月10日 (火) 発行 (毎月10日)

## 【農暦】、秋の夜長を、夜なべの選別作業！

○8日は立冬である。時々半袖の人に出会うが、長袖、上着は当たり前の時季になっている。先月の24日が霜降であった。初霜が降りたか気が付いていないが、朝夕はめっきり寒い。7日に炬燵をだした。江戸時代には“炬燵開きの日(＊)”があったという。新暦の今月の19日に当たる。ちょっと早いと思ったが寒い日が続くので出すことにした。続けてカレンダーを見ていたら、先月25日のところに“十三夜”とあった。24日の吟詠の大会で、霜はから始まる上杉謙信の“九月十三夜陣中の作”を吟じていた。十三夜の前日だったのだとその時は知らなかった。十五夜を眺めて、十三夜を見ないのは片月見として忌みきらわれるといわれるという。片月見をしてしまった。旧暦は農事に係わるが多く記されている。農的生活を大事にするのであれば旧暦のことをもう少し気にした生活を考えねばと思った次第である。

○小豆、黒豆の収穫に畑へ行った。雑草の処理をしてから少し時間は経っていたが畑は一変していた。初霜があったと思えないが里芋の葉は枯れ、小豆も黒豆も葉は落ち莢がたわわに露出していた。収穫時だと急かされているような気がした。先月末に黒の小豆を収穫に来た時と畑の様相が違っていた。この辺での通常の初霜は11月初めであるので霜が降りたのかもしれない。小豆を優先に収穫し黒豆も一部を収穫した。里芋も掘らなくてはならない。霜が続くと、痛んでしまう。今年は亀虫に出会わない。虫が少ない。小豆も黒豆も莢が目立って多いように感じる。ひよっとしたら豊作になるかも知れない。

○白菜と大根が遅れ気味ではあるが元気に生育してきている。雑草に負け意気消沈の私を叱咤激励の意味を込めて？Kさんの援農作業で播種したものである。防虫ネットを掛けていないが虫に打ち勝っている。ネギも分葱も元気に生育している。全く期待していなかった“はやと瓜”は大豊作である。葛に半分覆われていたキューイも助かり収穫できた。生姜も収穫出来そうである。雑草に負けた畑もちょっとだけ元気を取り戻している。



＜コスモス＞柏の農業公園。いつも季節の花が咲いている。貸しグラウンドゴルフがあり、楽しんだ。27日撮影

○まだ、雑草に負けて荒れた痕跡の残った畑を眺めながら、収穫を急ぎ、畑を少しでも整備したいと思うと、何となく忙しい気持ちになる。今年も2ヶ月をきっている。優先順位をつけながら進めたい。小豆、黒豆の収穫、乾燥、選別はこれからが本番である。秋の夜長を、夜なべの選別作業を半分楽しみながら頑張りたいと思っている。立冬は8日であったので秋でなく冬になってしまったが、、、。

\*炬燵を出す日として、江戸時代は「亥の月の亥の日」が使われた。十二支の亥は、五行説の「水気」、陰陽説の「陰気」に当たり、火を制御すると云われ、亥の日に炬燵を出すと火事にならないという言い伝えがあったと謂われている。

### 【楽農】今年も黒豆、小豆、金時の収穫！

<畑A> ; はやと瓜、キューイの収穫。

<ハウス> ; トマトの少量収穫（放置のままの）。

<畑B> ; 黒豆、小豆（\*）、金時の収穫。草の処理  
・周辺の木・雑草処理など？する。

\*水戸自然農の方から頂いた種で黒、白も少量ある。



<はやと瓜>草に負けた畑で大豊作。30日撮影

### 【楽市】イベント交流・直売など

○その他；

たまり場の交流会（15日）、吟詠大会・公民館まつり（24日）文京区男女平等まつり、宮沢賢治朗読会（\*）（25日）「何を怖れる」試写会&上野千鶴子さんのトークへ共生の会で（1日）に参加など。

\*この後、日本橋の居酒屋で3か月の船旅より帰国した古い山の友人から話を聞きながら美酒を頂いた。



<黒豆>三角に立て乾燥中、しっかり実を付けている。2割程で、多くはまだ畑に。8日日撮影

### 【つぶやき=Tweet】醜い心が“相田みつを”に反応

○今日（7日）の日めくりカレンダーに「あなたの ところが きれいだから なんでもきれいに 見えるんだ なあ みつを」とあった。最近醜いものがより多く目についてしまう。人を見る目が人生経験を重ねる内に鋭くなったとも言えはいるが、美しく見えないのは、私の心が醜くなって来ていると思うと怖くなる。“相田みつをの言葉”は真理をついていると思えるからである。一時期、鈍感力（\*）という言葉が流行ったが、醜いものに鈍く感じないでいられるのも能力かもしれない。他人の醜いところを見るのも嫌だが、自分の醜さを自覚するのはもっと嫌である。出来るなら綺麗な心でなんでも綺麗に見たいものである。醜い心が“この言葉”に反応してしまったと思うと、寂しい気持ちにもなる。  
○“映画「何を怖れる」試写会&上野千鶴子さんのトーク”で上野さんの話を初めて聞いて

た。はらんきょうの会の主催で筑西市、筑西市教育委員会、茨城新聞などが後援していた。上野千鶴子のプロフィールには社会学者・立命館大特別招聘教授・東大名誉教授、専門は女性学、ジェンダー研究、高齢者の介護問題にも関わっている。少し省略したが、とあった。上野さんのことでは、3年前になるが、朝日新聞の読者相談室「悩みのるつぼ」で中学生の相談者に対しての回答で“土下座してお願いすれば10回に1回は、、”が話題になったことが記憶にあたらしいが、社会学者として？活躍されている。20年以上前になるが、ジェンダー関連の本を読んで衝撃を受けたことが思い出された。「何を怖れる」は松井久子監督がフェミニストたちの証言でつづったドキュメンタリー映画である。立場の違う有名な？女性のトークは女性史の深い言葉として聴けた。この映画は多くの人のカンパで作られたというが、その中に安倍昭恵首相夫人の名もあると云う。今、12年前に書かれた「当事者主権」中西正司・上野千鶴子著を読んでいるが、ジェンダー問題だけでなく介護、障害者、医療などについて“助ける人と助けられる人という関係”でないあり方を、事例も含め問うている。わかり易い例で言えば、医者のための医療体制でなく患者のための医療で主権者は患者である。

○最近いつも感じていることだが、女性の活動エネルギーには敬服するばかりである。ボランティアなどの社会活動のほとんどは女性が担っている。25日に参加した“文京区男女平等まつり・山の歌コーラス”、“宮沢賢治朗読会”も古い山の仲間の女性が活躍しており、案内をいただいたものである。男の姿は少ない。何かしなくてはと思うのだが何もできない。炊事洗濯もまともにできない。自立は遠い。生涯現役などと農的生活を始めたが、情けない私がいる。

○ラグビーの五郎丸歩が、俄かにスーパースターになっている。ラグビーを楽しむ人が増えるのはラグビーをやった者としては嬉しい。だが加熱しすぎが気になる。高校時代の友人から南アフリカ戦の後、興奮気味の電話をもらった。大きな体には隔世を感じる。何か別のスポーツになったような気もちよとした。友人も同じこと言っていた。スポーツは生涯を通じ楽しみたいものである。勝ち負けより身体が喜ぶスポーツを楽しみたい。

**\*鈍感力**・集英社文庫、渡辺淳一著がある。「鈍さ」こそ、生きていく上で最も大切で、源になる才能だと説き明かす。恋愛関係、夫婦生活、子育て、職場、環境適応能力…。様々な局面で求められる鈍感力とは何か。先行き不透明な現代を生きぬくヒントが。とある。

**【後記】** 枯れ葉が舞い、収穫が終わり閑散とした田園もいい。笠間に、kogure農場にお越し下さい。HPに転載しています。

**【特に編集せずランダムな構成にします】**



＜銀座まつりの後＞印半纏に能登の文字。銀座の路地で、何となく。25日撮影

発行者；Kogure農場・小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

メール；[torao-k@nifty.com](mailto:torao-k@nifty.com)

HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>